

JARL

# 香川クラブ報

第 212 昭和59年 6 月15日



社団法人 日本アマチュア無線連盟香川クラブ

## 430MHz レピータ局開局

JR5WL・JP5ZAG 代表者 天野 英弘

設置場所の問題で開局が遅れていた団体局のレピータは昭和59年6月26日頃本免許になることになりました。香川県のほぼ中央部にあたる綾歌郡飯山町城山の中腹南斜面に設置された「JR5WL」局の周波数は439.56/434.56MHzです。

10m高のコンクリート柱の上にコーリニアアンテナが上げられており、香川県内をカバーできるように、しかも他エリア特に4エリアの影響を受けないようにとの配慮から設置場所を選定いたしました。したがって県内でも瀬戸内海に面した一部では、電波の伝播が悪い場所があるかも知れませんが、概ね良好な結果が得られるものと思います。

このレピータ局の管理団体は、地域登録クラブである「JARL香川クラブ」、「善通寺クラブ」、「JARLこんびらクラブ」、「坂出アマチュア無線クラブ」、「綾歌アマチュア無線クラブ」を母体として、各クラブから構成員を選出し、保守・運営・管理および経費の負担を行っております。

この局の運用責任者であり緊急時の連絡者として、JA5MIK新名等氏を選任し、「JP5ZAG」のコールサインで、レピータ局の電源のオン・オフ、電波の発射の停止などを遠隔操作できるようにしております。

レピータ局を開設するに当り、多くの方がたから物心両面でのご協力をいただいたことに対し厚くお礼を申し上げます。

この局は私達アマチュア無線家の共有の財産でありますから、不法電波や不法運用に対しては各局が監視し、適法な運用が行われ有効に利用できるようご協力をお願いいたします。

### 開局式・祝賀パーティー

上記「JR5WL」の開局を記念し、下記のとおり開局式および祝賀パーティーを行いますので、多数ご参加ください。なお、クラブ定例ミーティングは、この行事に変更させていただきます。

日時 59年7月1日(日) 11.00～

場所 JA5MIK新名等宅

会費 1,500円

(駐車場はありますが、なるべく他の交通機関によりお越し下さい)



## J A R L 昭和59年度事業計画

( 第 26 回通常総会資料から )

我が国のアマチュア無線活動は、国内的にも、国際的にも大きく飛躍を続け、社会・文化・科学の発展に大いに寄与しており、本連盟に対する内外からの期待も非常に大きなものとなっております。

これは会員各位の深いご理解とご支援により、本連盟が設立目的に基づき、国内はもとより世界の動向を十分把握しつつ、その事業を推進してきたためと考えます。

本年も、さらに事業活動の充実強化に留意し発展させることを事業遂行の基調としたいと考えます。

本年は、諸外国との相互運用協定の締結を目前にして国際的運用が活発になるものと考えられます。また、ニューメディア時代を背景とした各種画像文字通信の普及、レビータの有効活用などをふまえ秩序ある発展を促すと共に、アマチュア衛星打上げをひかえ、一層、衛星通信に対し理解を深める施策を講ずるなどを行う必要があると考えられますので、会員事業の充実に努力しながら以下の事業を行うこととします。

- 1 WARC-79の決定に基づくアマチュアバンド拡充の促進
- 2 アマチュア無線制度の改善
- 3 国際的問題への対応の促進
- 4 アマチュアバンドの有効かつ秩序ある積極的利用の推進
- 5 アマチュア衛星JAS-1打上げに対する施策の推進
- 6 連盟組織の機能化促進
- 7 アマチュア無線活動の育成・強化
- 8 監理事業の充実
- 9 身体障害者に対する援助・協力

### お ね が い

さきに行事計画で報告おきのフィールド・ミーティングの候補地は、峰山・公淵・仲南を予定していますが、他にF Bな場所をご存知の方は役員までお知らせください。

### 新 入 会 員 紹 介

J R 5 H D C 森 川 勝 彌

よろしく

## ロス五輪の聖火リレー、アマチュア無線が支援

### 衛星募金に協力を

ロサンゼルス・オリンピックの聖火リレーは、大会発祥の地・ギリシヤから始められることになる。同地で太陽から採火された聖火は、最新の報道によれば、ニューヨークまでレーザー光線のビームとして送られる。そこで沢山のトーチに火が移され、国内横断の聖火リレーの第1走者がスタートを切る。

今度の大会の多くの行事がそうだが、このクロス・カンントリー・トーチ・リレーも後援者つきである。ということはその行事に自分の名前や企業名をつける権利を獲得するために誰かお金を出したものがいるのだ。聖火リレーの場合、その“誰か”はAT&T (American Telephone Telegraph) コミュニケーションとして知られた通信界の巨人である。

この仕事を遂行するためにAT&Tは、29組の輸送集団を組織した。彼らは東海岸から西海岸へと運ばれる聖火に随行することになっている。その大掛りな配置に驚いた人たちは、輸送集団内および各集団と東海岸に設けられる数か所の組織センターとの主要連絡手段としてはアマチュア無線に頼る—とAT&Tが発表した時は、もっとびっくりした。

○ 2m F Mと11m A M—C Bを使って

実際にはアマチュア無線と、それよりぐっと利用度は下がるがD級11メートルC B無線が、聖火リレーの続く間、機能することになる。AT&Tの3人の地域責任者の1人で、行事の企画を監督する立場にあるD・シエフコート氏がウエストリンク・レポート紙に説明してくれたところでは、29輸送集団の各々に2メートル(144MHz)のF Mトランシーバーと11メートルのA M—C B機が配備される。これらの機器は特定の製品を選んだわけではなく、とにかく手に入る限りのトランシーバーや付属品を戸棚の在庫品まで動員したものだといっている。聖火リレーのどのコースでも一輸送集団中の少なくとも1人は正規のアマチュア無線免許を持つ運転手がいなければならない。彼らが各集団間の連絡を受け持つ。

連絡面でもう一つ興味を呼ぶのは、各集団がデータ処理のボード機器を持っていることだ。シエフコート氏によれば、この機器はリレーを成功させるための全ての側面援助を統御する能力があるとか。現在のところではこれ以上詳しいことはわからないが、とにかくオリンピックの歴史上、このような機器が前記のような目的のために移動運用されるのは初めてのことである。

○ 休暇をとって奉仕活動に参加を

これらの機器を動かすためには膨大な数の熟練したオペレーターが必要と



とは明らかだ。それを満たすため、会社員たちは年次休暇をとって聖火リレーへの奉仕に参加してほしいと A T & T は提唱している。そのほかのメンバーは「アメリカ・テレホン・パイオニア」の名で知られている従業員組織の人たちである。実際、A T & T が後援活動を組織化して以来の輸送集団のメンバーは、アマチュア無線家かそうでないかは別にして、全員がベル社系列である。

A T & T 社外の人にも助けを求めるのかと聞いてみたらジエフコート氏は、「輸送集団で直接に作業に当たる場合を除いて、連絡のすべての局面での援助は感謝をもって受け入れる」と答えた。

ブレ・オリンピックを飾る聖火リレーのスタートから全競技日程の終了まで、アマチュア無線家は引き受けた役割を完全に果たすよう、いま計画を進めつつある。

## ウッドペッカー、新たな“イタズラ”

——— 船舶の無線通信を乱す ———

アマチュア無線が悩まされている混信には 7 M H z 帯を中心とする外国短波放送のほかに「ウッドペッカー」がある。これは米ソが相互に相手側の I C B M (大陸間弾道弾) や潜水艦から発射されるミサイルの飛来を探知するために発射している超地平線 (オーバー・ザ・ホライズン = O H T ) レーダー電波。「カタ、カタ、カタ……」とキツツキが木をたたくような音から名付けられたもの。短波が電離層で反射する性質を利用してレーダー基地から常時発射していれば、I C B M が打ち上げられて電離層を通過する時、同層に生じる乱れがキヤッチでき、この情報を基に迎撃や報復態勢がとれる

米ソ両国とも O T H レーダー網を持っているが、アマチュア無線の交信を妨害するウッドペッカーを方位測定すると、発信源はいずれもソ連国内と思われ、いまのところアメリカのものは混信して来ない。

これと同性質と思われる電波が、このところ船舶無線を妨害するようになり、海の男たちを悩ませている。朝日新聞 2 月 2 9 日夕刊によると、怪電波が出始めたのは去年の後半ごろから。交信中に「カタ、カタ」音が混入してモールス交信が聞きとれなくなったり、気象通報を受信するフアクシミリが映らなくなったり被害が続出しているという。

郵政省電波監理局の無線通信部では、この怪電波について断続音はごく短時間に断続的に流れる電流によるパルス波と見られるが、学術機関のレーダーは周波数が決まっている点等から軍用レーダー波との見方を強めてはいるが、発生源や使用目的はわからないとしている。

( J A R L 情報第 71 号から )

社団法人 日本アマチュア無線連盟

香川クラブ報

発行責任者 JA5AHM 天野 英 弘

編集者 JA5IQP 合田口 正 春

" JA5OIB 合田口 キヨ子

連絡事務所 高松市中新町

(〒760) 天野 英弘 方

(TEL) 高松

郵便振替口座 徳島48758 JARL香川クラブ